

<体験学習実践例>

① 車いす体験

二人一組での体験、班ごと、屋内屋外での体験などさまざまなスタイルが考えられます。

【体験項目】・車いすのたたみ方、ひろげ方・車いすの押し方(声かけ)・ブレーキの操作方法・段差の越え方・溝の越え方・坂道ののぼり方、くだり方・階段の昇降・屋外の歩道での進み方など



体育館や屋外で車いす体験(小・中学校)

② 高齢者疑似体験

体にサポーターや重りを着けることにより、高齢者の感覚を体験します。体の重さ、肘や膝の動きにくさのほか、白内障とほぼ同じように見えるメガネなどを使って目の衰えも体験できます。サポーターを装着するのに時間を必要とするため他の体験に比べ時間を長めに設定することが必要です。

【体験項目】・上着の着脱、整理・足元の物をひろう・箸を使う・目の見え方を確かめる・平地での歩行・階段の昇降など



高齢者疑似体験(中学校)

③ アイマスク体験

二人一組でペアを組み、一人がアイマスクをして視覚障がい者の体験を、もう一人が介助の体験をします。途中で交代し、両方の立場を体験します。視覚障がい者の生活上の不便を知ることができ、またそれ以上に介助をすることで、ボランティア活動の大切さや、自分にもボランティアができることを知るきっかけになります。

【体験項目】・平地での歩行(声かけ)・階段のある道の進み方・階段の昇降・椅子に座る・方角の表現方法を知る・介助の方法など

アイマスク体験(中学校)



④ 手話体験

手話は、聴覚障がい者のコミュニケーションの一つとして使われています。手話体験学習では、「あいさつ」や自己紹介などを学び、手話に触れる体験をすることが一般的です。実際には、聴覚障がい者のなかにも、手話を使わない方がたくさんいらっしゃいます。この体験を通じて、手話だけでなく、筆でもコミュニケーションがとれることも含めて、理解を深めることが大切です。

【体験項目】・あいさつ・指文字・自己紹介など



手話体験(小学校)

⑤ 当事者の方のお話を聴く・交流

福祉学習を深める上では、当事者の方々の話や体験を聴くことが大切です。当事者の方を招くにも「誰にお願いしたら良いか分からない」「どこに相談したらよいか分からない」と思ったらまず社協にご相談ください。今までの体験や生きてきた歴史を知ること、尊厳を育み交流することができると思います。

当事者との出会い
・交流(小学校)



⑥ ボランティア体験

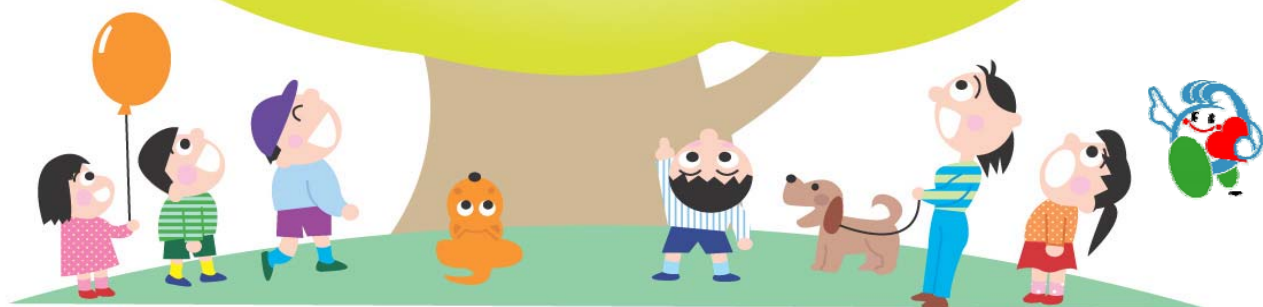
ボランティア活動は、人と人の関係を越え、住みやすいまちや社会をつくるため、また身近な地域やそれを越えた広い社会、さらにはそれらを取り巻く自然環境などに対し役立つもので、エネルギーや方向性を作り出していきます。こうした活動は、市民社会の一員としての「市民」意識や社会力を身につけてくれる可能性をもっています。

ペットボトルのフタの回収、ひとり暮らし高齢者などを対象にした配食サービスのお弁当に添えるメッセージカードの作成、地域の施設との交流など





福祉学習ハンドブック



社会福祉法人 南あわじ市社会福祉協議会
南あわじ市ボランティアセンター

〒656-0192 南あわじ市広田広田 1064(南あわじ市旧緑庁舎内)

TEL 0799-44-3007 FAX 0799-44-3037

URL <http://www.minamiawaji-shakyou.or.jp>

Eメール info@minamiawaji-shakyou.or.jp

社会福祉協議会とは

社会福祉協議会(社協)^{しゃきょう}は、社会福祉法で『地域福祉を推進することを目的とする団体』として位置づけられています。「当事者・住民の主体性を原動力としながら、誰もが地域の一員として『自分らしく』暮らせる地域づくりをすすめる」ことを使命としています。

ボランティアセンターとは

ボランティアセンターは社協の中にあり、ボランティアに関心のある人や手助けを必要としている人の相談に応じ、ボランティア活動に関する情報提供、ボランティア団体の育成・支援などを積極的に行っています。ボランティアセンターでは、福祉学習の推進も重要な活動のひとつです。

～ はじめに ～

このハンドブックは、南あわじ市内の小・中学校で福祉学習を推進するために、役立つ情報を提供するため作成しました。「なぜ、福祉学習が必要か?」「福祉教育を通して何を学び、何を伝えるのか?」を社協という立場からご提案できればと思います。大切なことは、学校関係者・地域住民・児童・生徒が一緒になって、同じ地域で生活するひとり暮らし高齢者や、障がい者の存在を知り、思いや悩みを共有することです。そこから、さまざまな生活や生き方があることに気づき、福祉問題、福祉活動の意味や役割に関心をもち、生活課題を抱えている人を理解し、深い思いやりの心が生まれるのだと思います。このような「気づき」は、子どもたちや私たち大人が成長していくためにも大切なことなのです。

子どもも・地域も・ともに育ちあう福祉学習



福祉学習とは、

「みんなの ふ(ふだんの) く(くらしの) し(しあわせ) を考えるための学習」のことではないかと思いますが、いかがでしょうか。言葉でいうと分かりにくいかも知れませんが、以下の3つの考えを大切に、福祉や人間に関心をもち、自ら行動する人々が増えることをめざしています。

- ❑ 気軽に進めよう。福祉の理解からはじめなくても大丈夫
- ❑ 困っている人の困難を理解しよう
- ❑ そのために何ができるのか考え、やってみよう

福祉学習を通して、

子どもたちに「5つの力」を引き出すことが求められます。

- ❶ 人や自分を思いやる力
- ❷ 違いや自分を認める力
- ❸ 自分の思いや考えを人に伝える力
- ❹ 事実を受け止め自分で考える力
- ❺ 自分で考え行動する力



ところが福祉学習というと、

手話や点字の学習をすること、車いす体験をすること、さまざまな当事者の方との交流体験をすることなど、いわゆる福祉に関わる体験をすることそのものが目的だという誤解があるようです。これらの取り組みは、子どもや地域が変わるきっかけにはなりますが、ただ体験の場があることだけでは充分ではありません。繰り返し体験を重ねながら、関係が変わる様子を楽しみに見つめ、さまざまな人が関わる機会や子どもたちの意欲・自発性が高まる機会を創り出す支援者の存在が不可欠なのです。

そこで、

学校の先生方や子どもたち、そして地域のみなさんを私たちが応援しながら福祉学習を進めるお手伝いの具体例を提示します。

福祉学習 相談から実施までの流れ



事前相談

今までの取り組みをさらによくしたい、などのご相談を南あわじ市社協の職員がお伺いします。ご相談内容に応じ学校周辺の社会資源や活動する学年、実施時期を参考に授業の企画づくりをサポートします。

講師・受入先紹介

授業内容に応じて適切な講師や受入先を検討し、ご紹介させていただきます。ただし、講師や受入先は日頃は仕事をされています。そのため直前の申し入れに対応できないこともありますので、日程には十分な期間が必要です。

機材貸出

ボランティアセンターでは、福祉学習で使用する福祉用具の貸出しを行っています。南あわじ市内の学校には、スタッフが機材の搬入・搬出のお手伝いをしています。体験用機材の貸出しは希望が集中する時期がありますので早めにご予約ください。

発表・見学

子どもたちの発表の場を見学させていただきたいと考えています。今後、よりよい体験を進めていくため、また広報などへの掲載にもご協力ください。

体験学習

体験学習は当事者への理解を深める効果的な学習です。しかし、目的をどのように設定するのかが意味合いは大きく変わります。例えば、単に「車いすの押し方を学ぶ」のが目的でなく「障がいのある方の生き方にふれる」や「優しい心を育てる」ことを目的としているはずですが。体験学習は、このような目的を達成するための手段であって、体験学習自体が目的ではないこと、そして本来の目的を達成する上で、当事者の方からお話を聴くことも重要だと考えます。